



初等部がめざす「子ども像」と

「言語活動の充実」・「言語力の育成」

部長 松本安博

- 「グローバル化が進む知識基盤社会を志高く、『夢』と『希望』をもって、『感謝』と『奉仕』に生きる子どもたち」
- 『豊かなこころ』と『確かな学力』、『健康やかなからだ』を兼ね備えた品位ある子どもたち
- 『私たちのちかい』を進んで実践し、ルールを守りマナーを身に付けている子どもたち

これらは、初等部がめざす「子ども像」です。私はこれらの「子ども像」の具現化に向けた取組の推進にあたり、いつも思うことがあります。それは、「言語活動の充実」であり、「言語力の育成」です。

昨日のことでした。中休みに私の部屋を訪れてくれた子がいました。「お願いがあります。」ということで、話をよくよく聞いてみますと、自分が暗唱した詩を聞いてほしいとのことでした。「いつどこですか。」とたずねたところ、「お昼休みの12時50分頃にもう一度来ます。」と言い残して、部屋を出ていきました。

そして、約束通りその時刻にやってきました。私は、詩の朗読を聞く意味がよく呑み込めていませんでしたので、「誰が作った詩ですか。」「題はなんという詩ですか。」「どうしてこの詩を選んだのですか。」など、いくつか質問をしました。そうしましたところ、吉野弘さん作の「夕焼け」という長い詩でしたが、おばあさんの薦めがあったので暗唱したとのことでした。

いよいよ詩の朗読が始まりました。その子の希望で、私も立った姿勢で心を静めて傾聴しました。本当に長い詩でした。しかし、一言一句間違ふことなく、私を見つめて、力を込めてゆっくりと、抑揚をつけて語り続けてくれました。そして、時が流れ、「・・・つらい気持ちで 夕焼けも見ないで!」と、朗

読を結びました。私は、感動のあまり「素晴らしいね。」「よく覚えたね。」「ありがとう。」の言葉を唯々繰り返しました。気が付くと、いつしか部屋の入口に、その光景を温かく見守る担任の先生の姿がありました。

後になって分かったことですが、詩の朗読は、子どもたちが聞いてほしい人を訪ね、自らが好きな詩をその人に届ける国語科であった国語科を越えた学習とのことでした。

今年度初等部では、「子どもが輝く授業の創造～みんなと学び合う喜びを感じて～「主体的な伝え合いを通して、深め合う」」をテーマに授業改善に取り組んでいます。具体的には、大学より講師の先生を迎え、年間6回の全体授業研究会の開催を計画しています。また、1人2年に1回は、自主的に授業研究を行うことにしています。

「言語」は、知識や技能を習得するときはもちろんのこと、それらを活用して筋道を立てて思考し・判断し・表現するときも、コミュニケーションを図るときもその基盤となるものです。また、「言語」は、豊かな感性や情緒の基盤でもあり、「確かな学力」だけでなく、「豊かなこころ」の形成にも深くかかわるものです。心を込めた「ありがとう。」の言葉をもっている人に会おうと、不幸ばかりに意識が向きがちで、身の回りにあるたくさんの幸せを見逃している自分に気づきます。

初等部では、これまでからも通常の国語科の学習に加えて全学年において週1時間の読書の時間、書き方と漢字の検定など、国語科学習の充実を図ってきています。一方、この4月より全学年において、英語を母国語とする先生と英語専科の先生による週1時間の英語学習を実施しています。

これからも、未来社会で活躍する子どもたちの将来の姿を思い描きながら、初等部の「子ども像」の実現に向けた取組を推進してまいりたいと考えています。